

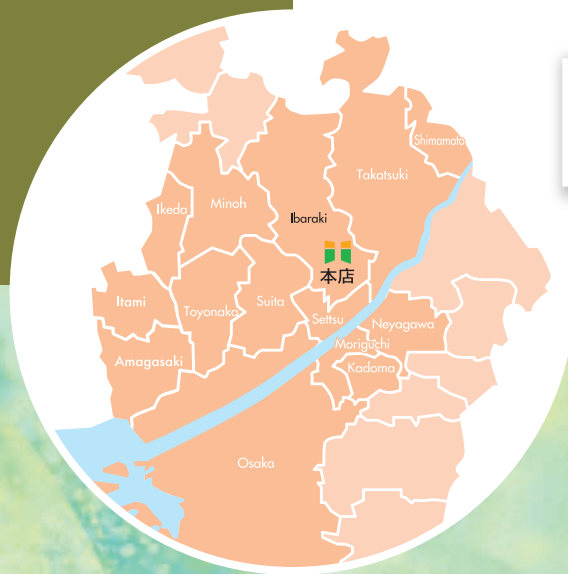
The Kita Osaka Shinkin Bank

北おおさか信用金庫

景況レポート

2022年7~9月期 No.35

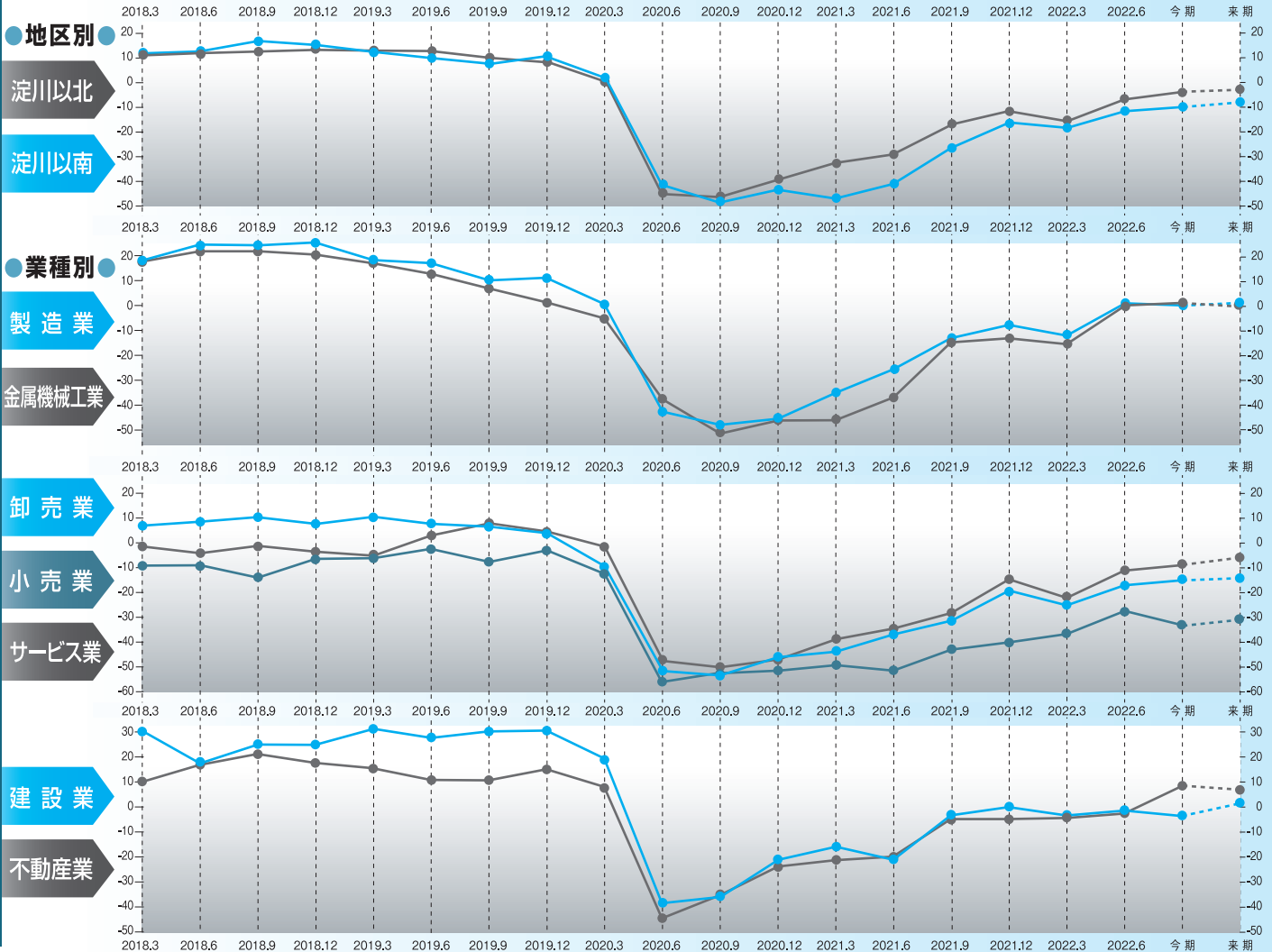
Business Condition Report



この街の未来をひらく

北おおさか信用金庫





INDEX

- 地区別・業種別 業況判断DI来期予想までの推移・目次……………1
- 調査概要……………2
- 全業種総合……………3・4
- 製造業……………5
- 金属機械工業……………6
- 卸売業……………7
- 小売業……………8
- サービス業……………9
- 建設業……………10
- 不動産業……………11
- 特別調査「IT化への対応と、DX推進の取組について」…12・13・14

〈調査概要〉 調査対象……………地元企業1,200社(有効回答1,198社)
 調査時期……………2022年9月
 調査対象期間…2022年7月～9月期 当期の実績(2022年4月～6月期との比較)
 2022年10月～12月期 来期の見通し(2022年7月～9月期との比較)
 調査方法……………当金庫職員による調査表に基づく聞き取り調査
 分析方法……………DI(ディフュージョン・インデックス)を中心とした分析

●DIとは

各調査項目について「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽・容易」の回答割合から、「悪い」「減少」「低下」「不足」「苦しい・難しい」の回答割合を差引いた数値です(普通、変わらず、適正は除外しております)。

(例)良い10%、やや良い20%、普通30%、やや悪い15%、悪い25%の場合

①良い = 良い10% + やや良い20% = 30%

②悪い = 悪い25% + やや悪い15% = 40%

$$DI = \text{①} - \text{②} = \blacktriangle 10$$

●調査内容と注意点

- (1)売上額、収益、受注残高、販売・仕入価格、在庫、資金繰り、残業時間は前期と比べた当期の状況(来期見通しは当期と比べた来期予想)です。
- (2)業況、人手、借入の難易度は、前期比ではなく、その時点での状況です。

●各判断DIが示す内容

	(プラス)	(マイナス)
業況	現状「良い」	現状「悪い」
売上額・収益	前期比「増加」	前期比「減少」
受注残高・残業時間	前期比「増加」	前期比「減少」
販売価格・仕入価格	前期比「価格上昇」	前期比「価格下降」
(原材料)在庫	前期比「過剰」	前期比「不足」
資金繰り	前期比「楽」	前期比「苦しい」
人手	現状「過剰」	現状「不足」
借入の難易度	現状「容易」	現状「難しい」

※DIプラスが良いとは限りません(例:仕入価格判断DIプラスは前期比価格上昇)

■対象企業の業種・従業員別構成

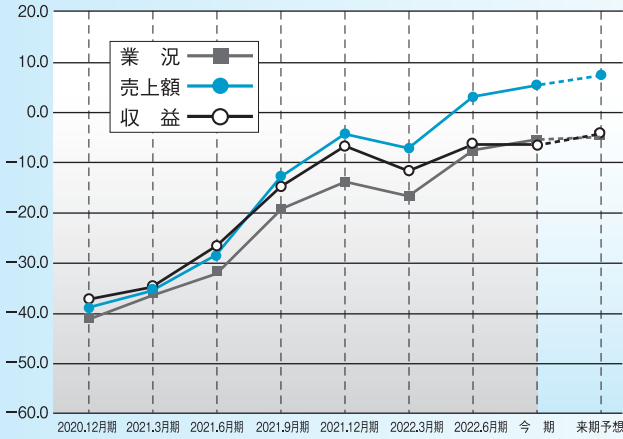
	4名以下	5～9名	10～19名	20～29名	30～49名	50～99名	100名以上	合計(構成比)	
製造業	39	51	44	22	18	17	9	200	16.7%
金属機械工業	56	58	38	20	16	6	6	200	16.7%
卸売業	48	25	24	13	5	3	2	120	10.0%
小売業	84	26	17	5	2	11	5	150	12.5%
サービス業	59	36	31	19	21	23	9	198	16.5%
建設業	60	59	54	15	5	5	2	200	16.7%
不動産業	83	32	10	2	2	—	1	130	10.9%
合計	429	287	218	96	69	65	34	1,198	100.0%
(構成比)	35.8%	24.0%	18.2%	8.0%	5.8%	5.4%	2.8%	100.0%	—

*製造業の構成比が他5業種と比較して大きいため、製造業のうち金属機械工業を1業種として分割しております。

●調査地域

淀川以北:島本町、高槻市、茨木市、吹田市、摂津市、豊中市、箕面市、池田市、伊丹市、尼崎市、東淀川区、淀川区、西淀川区 他 淀川以北
 淀川以南:寝屋川市、門真市、守口市、北区、西区、中央区、城東区、旭区、住吉区、此花区、福島区 他 淀川以南

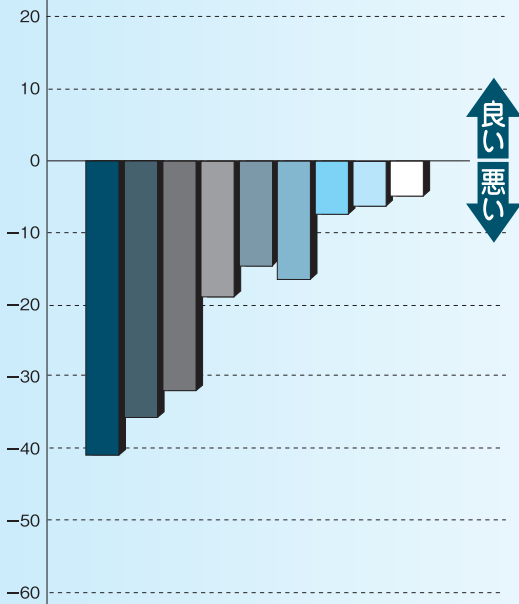
■業況・売上額・収益



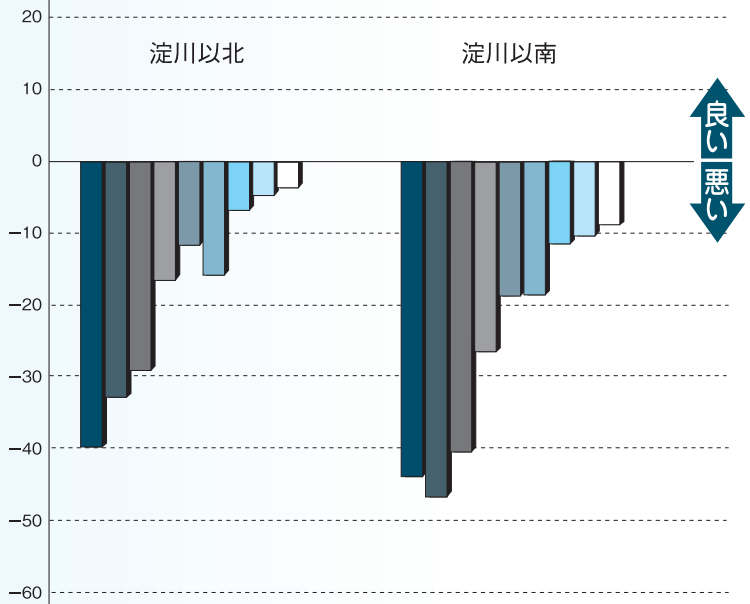
■全業種総合 DI値の推移

	2020.12月期	2021.3月期	2021.6月期	2021.9月期	2021.12月期	2022.3月期	2022.6月期	今期	来期予想
業況	-40.1	-35.5	-31.7	-18.9	-13.4	-16.3	-7.1	-5.6	-4.4
売上額	-38.0	-35.2	-28.1	-12.9	-4.4	-7.4	3.4	5.5	7.7
受注残	-38.0	-34.5	-23.3	-3.4	2.2	0.2	8.0	9.8	8.8
施工高	-22.0	-19.0	-17.5	-2.5	7.1	0.0	10.0	10.5	11.5
収益	-37.1	-34.7	-26.5	-14.5	-6.7	-11.8	-6.1	-6.1	-4.3
販売価格	-5.8	-6.2	-3.0	4.7	11.0	15.7	29.7	31.4	30.1
原材料・仕入価格	1.0	2.0	12.6	29.6	42.0	50.0	61.5	60.0	56.5
在庫	-4.4	-3.5	-4.1	-4.8	-8.7	-8.2	-6.9	-4.8	-6.1
資金繰り	-10.5	-8.1	-5.0	-0.8	0.0	-1.8	1.4	0.8	1.0
従業員残業時間	-17.5	-14.0	-13.7	4.3	6.3	5.3	7.3	5.9	5.2
従業員人手	-5.8	-6.2	-4.9	-8.0	-10.9	-12.0	-12.6	-11.3	-11.1
設備状況	-3.9	-4.1	-4.1	-4.6	-4.4	-5.1	-4.0	-3.6	-4.0

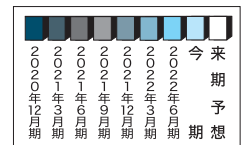
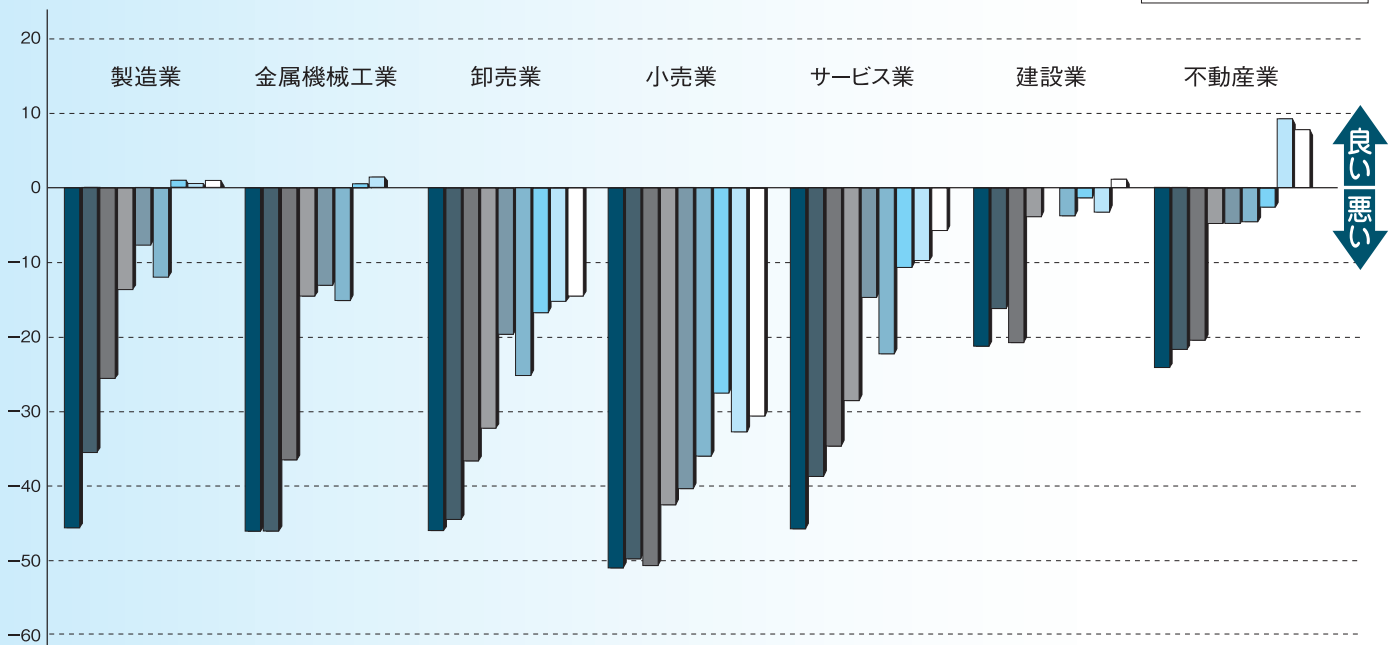
■全体業況判断DI



■地区別業況判断DI



■業種別業況判断DI



業況について

2022年7月～9月期 ～業況は前期比1.5ポイント増とほぼ横ばい～

2022年7月～9月期、全業種の業況判断(DI)は▲5.6(前期比1.5ポイント増)とほぼ横ばい。
 来期予想の業況判断(▲4.4)は、水準としては依然として厳しい状況が続くものの、ほぼ横ばいの見通し。

《業種別》 — 不動産業は大幅な改善、金属機械工業・卸売業・サービス業は小幅な改善。

製造業はほぼ横ばい。建設業は小幅な悪化、小売業は悪化した。—

業種別にみると、「不動産業」9.3(前期比11.6ポイント増)と大幅な改善。「金属機械工業」1.5(同1.0ポイント増)、「卸売業」▲15.0(同1.7ポイント増)、「サービス業」▲9.2(同1.4ポイント増)と小幅に改善。「製造業」0.5(同0.5ポイント減)とほぼ横ばい、「建設業」▲3.0(同1.5ポイント減)は小幅に悪化。「小売業」▲32.7(同5.4ポイント減)は悪化した。

～淀川以北地域、淀川以南地域ともに小幅に改善～

地域別にみると、淀川以北地域の業況判断(DI)は▲4.1(前期比2.4ポイント増)、淀川以南地域は▲10.0(同1.5ポイント増)と、それぞれ小幅に改善した。淀川以北地域の業種別では、不動産業(同▲4.1→同7.2)、金属機械工業(前期▲2.5→今期3.8)、サービス業(同▲12.9→同▲8.4)は改善し、卸売業(同▲17.7→同▲16.5)は小幅な改善。製造業(同6.9→同4.8)、建設業(同2.5→同0.0)と小幅な悪化、小売業(同▲26.7→同▲32.5)は悪化した。淀川以南地域の業種別では、不動産業(同0.0→同14.3)と大幅な改善、建設業(同▲19.4→▲16.2)は改善した。製造業(同▲13.7→同▲11.5)、卸売業(同▲13.2→同▲10.3)は小幅な改善、金属機械工業(同0.0→同▲2.5)は小幅に悪化した。小売業(同▲29.4→同▲33.3)、サービス業(同▲4.9→同▲10.3)は悪化となった。

来期の業況判断予想は、淀川以北地域(▲3.1)、淀川以南地域(▲8.9)ともに小幅な改善の見通し。

売上額・収益の動き

～売上額は前期比2.1ポイント増と小幅に改善、収益は前期比横ばい～

売上額判断(DI)は5.5(前期比2.1ポイント増)と小幅に改善、収益判断(DI)は▲6.1(同0.0)と横ばいであった。
 来期予想の売上額判断(7.7)、収益判断(▲4.3)は、ともに小幅な改善の見通し。

販売価格・原材料・仕入価格の動き

～販売価格、原材料(仕入)価格ともに小幅な改善～

販売価格判断(DI)は31.4(前期比1.7ポイント増)、原材料・仕入価格判断(DI)は60.0(同1.5ポイント減)と、ともに小幅な改善。
 来期予想の販売価格判断(30.1)は小幅な悪化の見通し。原材料・仕入価格判断(56.5)は小幅な改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りはほぼ横ばい、人手不足「超」幅は小幅に縮小～

資金繰り判断(DI)は0.8(前期比0.6ポイント減)とほぼ横ばい。

人手判断(DI)は▲11.3(同1.3ポイント減)と小幅に縮小。人手判断の内訳は、不足とする企業の割合は前期13.3%→今期12.6%、人手過剰とする企業の割合も同0.8%→同1.3%、適正とした企業の割合は同85.9%→同86.2%と、それぞれほぼ横ばいとなった。

来期予想の資金繰り判断(1.0)、人手判断(▲11.1)ともにほぼ横ばいの見通し。

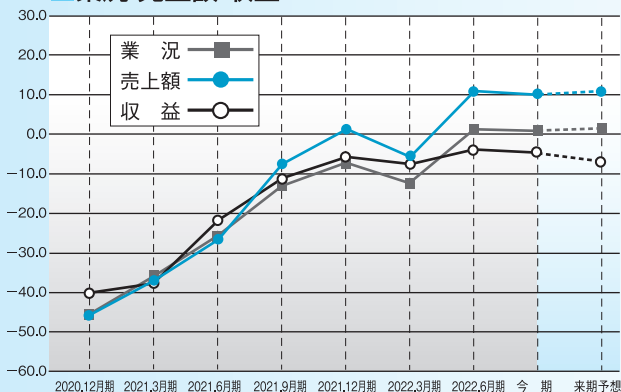
経営上の問題点

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	売上の停滞・減少 41.0%	原材料高 36.5%	同業者間の競争の激化 30.0%	利幅の縮小 26.0%	人手不足 22.0%
金属機械工業	売上の停滞・減少 73.5%	原材料高 40.0%	同業者間の競争の激化 37.5%	人手不足 23.0%	利幅の縮小 11.5%
卸売業	売上の停滞・減少 55.0%	同業者間の競争の激化 20.8%	輸入商品との競争の激化 7.5%	取扱商品の陳腐化 5.8%	人件費以外の経費の増加 5.8%
小売業	売上の停滞・減少 58.7%	同業者間の競争の激化 16.0%	輸入商品との競争の激化 10.0%	人手不足 8.7%	取引先の減少 6.7%
サービス業	売上の停滞・減少 78.5%	同業者間の競争の激化 42.5%	人手不足 23.0%	人件費の増加 7.5%	問題なし 6.5%
建設業	売上の停滞・減少 69.0%	人手不足 43.5%	同業者間の競争の激化 37.0%	材料価格の上昇 15.0%	大手企業との競争の激化 9.0%
不動産業	売上の停滞・減少 57.7%	商品物件の不足 46.9%	同業者間の競争の激化 40.8%	商品物件の高騰 30.8%	大手企業との競争の激化 22.3%

当面の重点経営施策

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	販路を広げる 60.0%	経費を削減する 41.5%	人材を確保する 21.0%	情報力を強化する 18.5%	新製品・技術を開発する 16.5%
金属機械工業	販路を広げる 48.5%	経費を削減する 20.5%	情報力を強化する 5.5%	人材を確保する 5.5%	特になし 5.5%
卸売業	品揃えを改善する 85.8%	経費を削減する 50.0%	宣伝・広告を強化する 16.7%	新しい事業を始める 10.0%	パート化を図る 10.0%
小売業	経費を削減する 56.7%	販路を広げる 37.3%	品揃えを充実する 36.7%	人材を確保する 13.3%	提携先をみつける 12.7%
サービス業	販路を広げる 50.5%	経費を削減する 48.0%	宣伝・広告を強化する 28.5%	人材を確保する 12.5%	新しい事業を始める 6.5%
建設業	経費を削減する 51.0%	販路を広げる 49.5%	人材を確保する 26.0%	情報力を強化する 17.5%	技術力を高める 14.5%
不動産業	販路を広げる 44.6%	情報力を強化する 41.5%	宣伝・広告を強化する 29.2%	経費を削減する 24.6%	不動産の有効利用を図る 7.7%

業況・売上額・収益



製造業 DI値の推移

	2020.12月期	2021.3月期	2021.6月期	2021.9月期	2021.12月期	2022.3月期	2022.6月期	今 期	来期予想
業 況	-45.5	-35.5	-25.0	-13.5	-7.5	-12.0	1.0	0.5	1.0
売上額	-45.5	-36.5	-25.5	-7.0	1.0	-5.0	10.5	10.0	10.5
受注残	-45.5	-36.0	-19.5	-1.0	5.0	0.5	5.0	10.0	10.0
収 益	-40.0	-37.5	-21.0	-11.0	-5.5	-7.0	-3.5	-4.0	-6.5
販売価格	-5.0	-7.5	-5.0	2.5	10.6	18.5	33.5	37.0	37.0
原材料価格	1.0	1.0	11.0	31.0	51.3	59.0	76.9	73.5	70.5
在 庫	-4.5	-5.5	-1.5	-1.5	-6.0	-3.0	-2.0	0.0	-0.5
資金繰り	-8.0	-4.5	1.5	2.5	4.0	1.0	6.6	5.0	4.5
従業員残業時間	-22.5	-13.5	-10.5	-2.0	-0.5	2.0	7.5	4.1	3.6
従業員人手	-5.0	-6.0	-6.5	-13.2	-15.4	-17.8	-12.6	-17.9	-16.4
設備状況	-9.5	-8.6	-8.6	-4.6	-4.1	-6.6	-4.5	-3.1	-3.6

業況について

2022年7月～9月期 ～業況は前期比0.5ポイント減と、ほぼ横ばい～

2022年7月～9月期、製造業の業況判断(DI)は0.5(前期比0.5ポイント減)と、ほぼ横ばい。

最多納入先別にみる業況判断(DI)では、「問屋・商社向け」(同▲8.7→同4.0)は大幅に改善した。「大メーカー向け」(前期26.5→今期26.7)はほぼ横ばい、

「中小メーカー・仲間業者向け」(同▲7.4→同▲9.1)、「小売・最終需要家向け」(同▲5.0→同▲10.0)は、それぞれ悪化した。

来期予想の業況判断(1.0)は、ほぼ横ばいの見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合 計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要家
全 体	200	25	45	110	20
良い～悪い	1	1	12	-10	-2
D I	0.5	4.0	26.7	-9.1	-10.0

売上額・収益・受注残の動き

～売上額・収益はほぼ横ばい、受注残は改善した～

売上額判断(DI)は10.0(前期比0.5ポイント減)、収益判断(DI)は▲4.0(同0.5ポイント減)といずれもほぼ横ばい、受注残判断(DI)は10.0(同5.0ポイント増)と改善した。

来期予想は受注残判断(10.0)は横ばい、売上額判断(10.5)はほぼ横ばい、収益判断(▲6.5)は小幅な悪化の見通し。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格、原材料価格はともに改善～

販売価格判断(DI)は37.0(前期比3.5ポイント増)、原材料価格判断(DI)は73.5(同3.4ポイント減)と、いずれも改善した。

来期予想の販売価格判断(37.0)は横ばいの見通し、原材料価格判断(70.5)は、改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

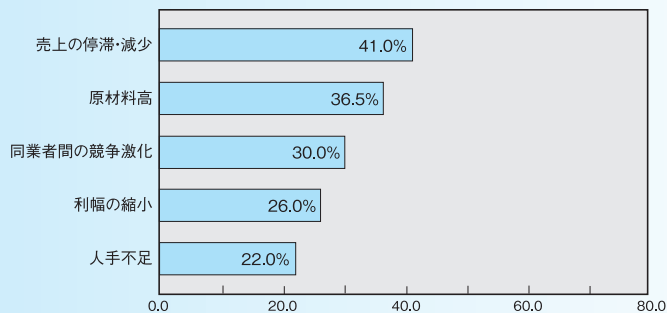
～資金繰りは小幅な悪化、人手については「不足」超幅が拡大～

資金繰り判断(DI)は5.0(前期比1.6ポイント減)と小幅に悪化。

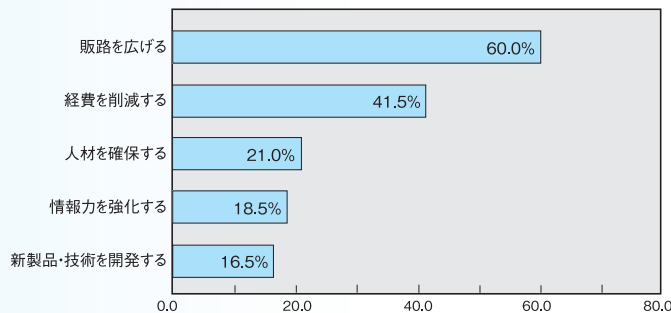
人手判断(DI)は▲17.9(同5.3ポイント減)と「不足」超幅は拡大。人手判断の内訳は、不足とした企業は前期19.3%→今期19.4%、人手過剰とした企業の割合は前期1.0%→今期1.5%、適正とした企業の割合は同79.7%→同79.1%と、いずれもほぼ横ばいであった。

来期予想の資金繰り判断(4.5)はほぼ横ばい、人手判断(▲16.4)は「不足」超幅が縮小の見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

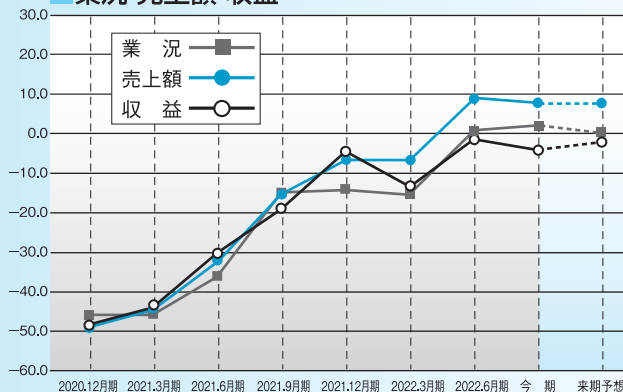


企業のコメント



- ・コロナの影響による売上減少もあったが、原状回復しており業況は安定している。(菓子)
- ・原材料高が深刻化している。販路拡大には成功してきており、今後売上増加に期待。(パン)
- ・徐々に受注も増加し、通年通しては安定した売上が確保できている。(耐火炉)
- ・材料費高騰の影響を受け、同社でも販売価格の値上げを進めている。(ハンガー)
- ・受注量は例年並みをキープしているが、材料費上昇しており収益減少している。(紙器)
- ・原油価格高騰の影響大きく、販売価格になかなか転嫁できていない。(寝具製造業)

業況・売上額・収益



金属機械工業 DI値の推移

	2020.12月期	2021.3月期	2021.6月期	2021.9月期	2021.12月期	2022.3月期	2022.6月期	今 期	来期予想
業 況	-46.0	-46.0	-36.6	-14.2	-13.3	-15.0	0.5	1.5	0.0
売 上 額	-49.0	-44.5	-32.0	-14.3	-6.6	-6.5	9.5	8.0	8.0
受 注 残	-47.5	-46.0	-31.0	-10.2	-6.1	-2.5	14.1	11.6	10.6
収 益	-48.5	-44.0	-30.0	-19.3	-4.1	-13.0	-1.0	-4.5	-2.0
販売価格	-6.0	-8.0	-1.0	5.6	9.7	14.0	36.2	30.5	28.5
原材料価格	-1.5	2.5	22.0	40.6	53.6	60.0	76.9	72.0	70.0
在 庫	0.5	-0.5	-2.0	-1.0	-5.1	-3.5	-2.0	0.0	-2.0
資金繰り	-8.0	-6.0	1.0	7.6	6.1	6.0	6.6	3.0	3.5
従業員残業時間	-25.5	-20.0	-13.5	-8.6	-0.5	3.0	7.5	3.0	4.0
従業員人手	-3.5	-6.5	-4.0	-8.1	-12.2	-12.5	-12.6	-10.0	-9.5
設備状況	-6.0	-8.0	-8.0	-7.1	-5.1	-8.0	-4.5	-4.5	-4.5

業況について

2022年7月～9月期 ～業況は前期比1.0ポイント増と、小幅な改善～

2022年7月～9月期、金属機械工業の業況判断(DI)は1.5(前期比1.0ポイント増)と、小幅な改善。

最多納入先別の業況判断(DI)は、「問屋・商社向け」(同7.7→同18.2)は大幅な改善、「大メーカー向け」(前期 6.2→今期9.0)、「中小メーカー向け」(同▲4.4→同▲3.5)はそれぞれ小幅な改善、「小売・最終需要家向け」(同14.3→同▲14.3)は、かなり大幅に悪化した。

来期予想の業況判断(0.0)は小幅な悪化の見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合 計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売・最終需要家
全 体	200	11	67	115	7
良い～悪い	3	2	6	-4	-1
D I	1.5	18.2	9.0	-3.5	-14.3

売上額・収益・受注の動き

～売上額、受注残、収益ともに小幅に悪化～

売上額判断(DI)は8.0(前期比1.5ポイント減)、収益判断(DI)は▲4.5(同3.5ポイント減)、受注残判断(DI)は11.6(同2.5ポイント減)と、それぞれ小幅に悪化した。

来期予想の収益判断(▲2.0)は小幅な改善、売上額判断(8.0)と横ばい、受注残判断(10.6)と小幅な悪化の見通し。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格は悪化した、原材料価格は改善～

販売価格判断(DI)は30.5(前期比5.7ポイント減)と悪化した、原材料価格判断(DI)は72.0(同4.9ポイント減)と改善した。

来期予想の販売価格判断(28.5)は小幅な悪化、原材料価格判断(70.0)は小幅な改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

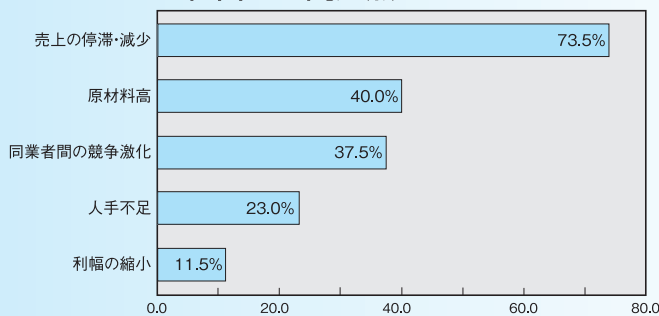
～資金繰りは悪化、人手については、「不足」超幅が小幅に縮小～

資金繰り判断(DI)は3.0(前期比3.6ポイント減)と、悪化した。

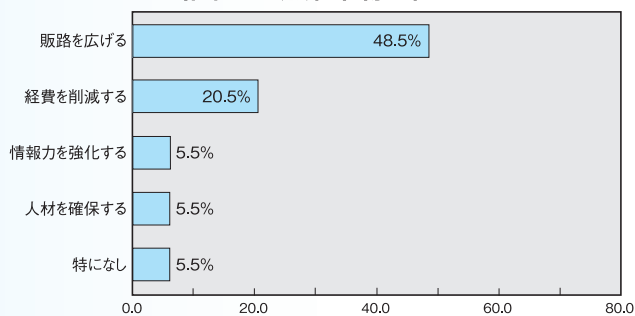
人手判断(DI)は▲10.0(同2.6ポイント減)と、「不足」超幅が小幅に縮小。人手判断の内訳は、適正とした企業の割合は前期87.4%→今期90.0%と小幅な増加、人手過剰とした企業の割合は同0.0%→同0.0%と無く、不足とした企業の割合は同12.6%→同10.0%と、小幅に減少した。

来期予想の資金繰り判断(3.5)、人手判断(▲9.5)はほぼ横ばいの見通し。

経営上の問題点



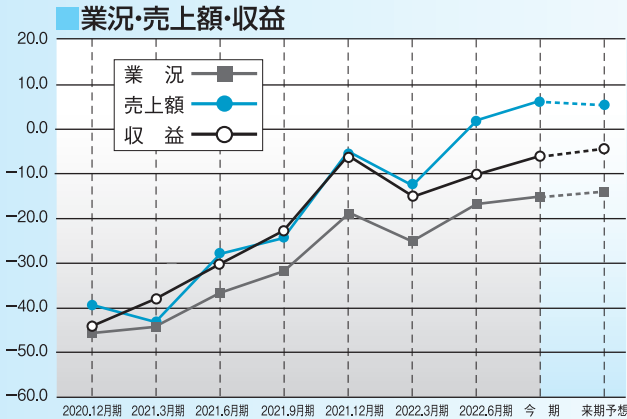
当面の重点経営施策



企業のコメント



- ・受注は安定しており、原材料高にあっても適正利益の確保がなされています。(樹脂成型)
- ・一時現場の工事延期等があったものの、現在は通常通り稼働しており、業況回復傾向にある。(電動機械修理)
- ・材料費が増加しているものの、価格に反映できており業況は横ばいにて推移。(試作板金)
- ・遅れながらコロナウィルスの影響が出てきた。従業員のコロナ感染や濃厚接触者も増加している。(アルミサッシ製造)
- ・仕入値が上がっており利益圧迫している。(機械部品加工)
- ・仕入が遅くなってきており、売上が減少している。(合成樹脂継手製造)



■卸売業 DI値の推移

	2020.12	2021.3	2021.6	2021.9	2021.12	2022.3	2022.6	今期	来期予想
業況	-45.8	-44.2	-36.6	-31.7	-19.2	-25.0	-16.7	-15.0	-14.2
売上額	-39.1	-43.4	-27.5	-24.2	-5.0	-12.5	1.7	6.7	5.8
収益	-44.2	-37.5	-30.0	-22.7	-5.8	-15.0	-10.0	-5.8	-4.2
販売価格	-13.3	-10.0	-3.4	9.2	15.0	20.8	29.2	35.8	35.0
仕入価格	-3.3	-1.6	10.9	25.0	37.5	41.7	50.0	53.3	50.0
在庫	7.5	10.8	5.0	2.5	-1.7	-2.5	-0.8	1.7	0.8
資金繰り	-12.5	-12.5	-5.8	-9.2	-0.8	-8.3	-9.2	-6.7	-9.2
従業員残業時間	-17.5	-10.8	-14.3	-7.5	-2.5	-3.3	0.8	2.5	4.2
従業員人手	5.8	0.8	-2.5	-0.8	-5.0	-5.0	-6.7	-3.3	-4.2
設備状況	1.7	1.7	1.7	-0.8	0.0	0.8	-2.5	-2.5	-2.5

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー	小売業者
全体	120	24	17	47	32
良い～悪い	-18	-5	-3	-6	-4
DI	-15.0	-20.8	-17.6	-12.8	-12.5

業況について

2022年7月～9月期 ～業況は前期比1.7ポイント増と小幅な改善～

2022年7月～9月期、卸売業の業況判断(DI)は▲15.0(前期比1.7ポイント増)と小幅な改善。最多納入先別の業況判断(DI)は、「大メーカー向け」(前期▲27.8→今期▲17.6)は大幅に改善。「中小メーカー向け」(同▲16.3→同▲12.8)は改善、「問屋・商社向け」(同▲20.8→同▲20.8)と横ばい、「小売業者向け」(同▲6.9→同▲12.5)は悪化。来期予想の業況判断(▲14.2)はほぼ横ばいの見通し。

売上額・収益の動き

～売上額は改善、収益も改善～

売上額判断(DI)は6.7(前期比5.0ポイント増)、収益判断(DI)は▲5.8(同4.2ポイント増)と、ともに改善した。来期予想の売上額判断(5.8)とほぼ横ばい、収益判断(▲4.2)と小幅な改善の見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は改善、仕入価格は悪化～

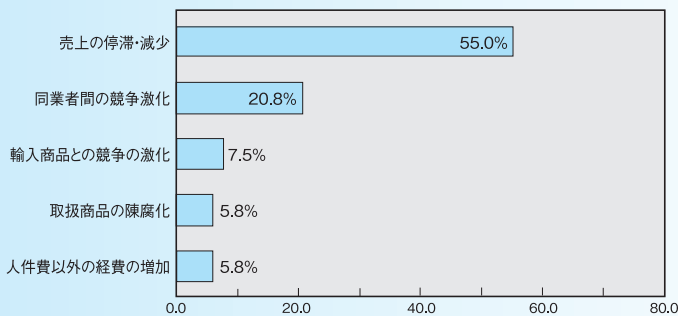
販売価格判断(DI)は35.8(前期比6.6ポイント増)と改善。一方、仕入価格判断(DI)は53.3(同3.3ポイント増)と悪化。来期予想の販売価格判断(35.0)とほぼ横ばい、仕入価格判断(50.0)と改善。

資金繰り・雇用面の動き

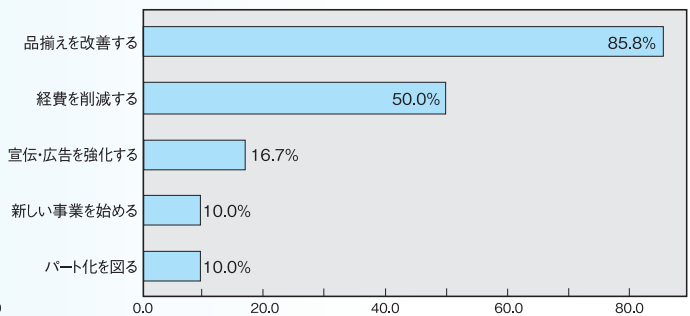
～資金繰りは小幅に改善、人手については、不足幅が縮小～

資金繰り判断(DI)は▲6.7(前期比2.5ポイント増)と小幅な改善。人手判断(DI)は▲3.3(同3.4ポイント増)と不足幅が縮小した。人手判断の内訳は、適正とした企業の割合は前期91.7%→今期93.3%と小幅に増加、人手過剰とした企業の割合は同0.8%→同1.7%とほぼ横ばい。不足とした企業の割合は同7.5%→同5.0%と小幅に減少した。来期予想の資金繰り判断(▲9.2)は小幅な悪化、人手判断(▲4.2)は、ほぼ横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

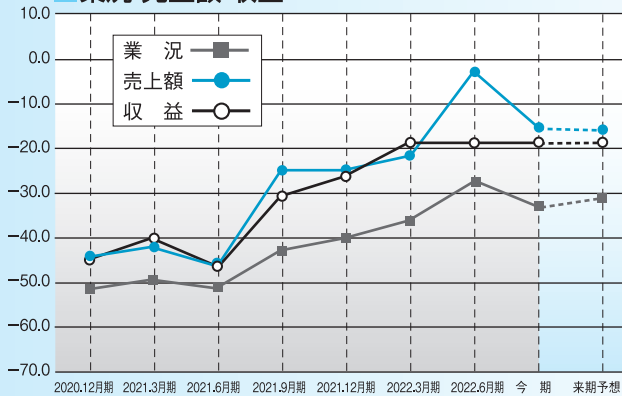


企業のコメント



- ・売上は安定してきており、今後正常化へ向けて経営努力する。(電子機器)
- ・延期になっていた仕事が入り売上増加。品不足が問題。為替リスクあり情勢注視中。(電子器具)
- ・原油値上がり等の影響で仕入価格は上昇傾向だが、収益を圧迫するまでには至っていない。(塗料)
- ・材料価格の高騰は販売価格へ転嫁できている。今後海外から材料が入ってこなくなるのが懸念材料。(配管資材)
- ・台風の影響で漁獲量が減少しており、仕入難や仕入値高騰が発生している。(生鮮魚介類)
- ・中国から輸入しているため、円安の影響が直に出ている。(靴卸業)

業況・売上額・収益



小売業 DI値の推移

	2020.12月期	2021.3月期	2021.6月期	2021.9月期	2021.12月期	2022.3月期	2022.6月期	今期	来期予想
業況	-51.4	-49.4	-51.3	-42.7	-40.0	-36.0	-27.3	-32.7	-30.7
売上額	-44.0	-42.0	-46.6	-24.7	-24.7	-21.3	-3.3	-15.3	-16.0
収益	-44.6	-40.0	-46.6	-30.7	-26.2	-18.7	-18.7	-18.7	-18.7
販売価格	-6.7	-7.3	-6.7	-0.7	8.1	14.0	28.0	26.7	26.0
仕入価格	-2.7	-4.0	-2.0	9.3	22.7	32.7	48.3	50.0	49.3
在庫	-3.3	1.3	1.3	2.7	1.3	2.0	0.7	0.0	0.7
資金繰り	-26.0	-24.0	-24.0	-14.0	-17.3	-16.7	-5.3	-13.3	-12.7
従業員残業時間	-14.0	-16.7	-20.0	-14.0	-14.0	-5.3	-0.7	0.0	-0.7
従業員人手	1.3	2.0	3.3	-3.3	-4.0	-6.0	-5.3	-4.0	-2.7
設備状況	-4.0	-4.7	-4.7	-4.7	-5.3	-2.7	-2.0	-1.3	-2.0

業況について

2022年7月～9月期 ～業況は前期比5.4ポイント減の悪化～

2022年7月～9月期、小売業の業況判断(DI)は▲32.7(前期比5.4ポイント減)と悪化。店舗立地地域別の業況判断(DI)は「駅周辺商店街」(同▲30.2→同▲31.1)はほぼ横ばい、「住宅地隣接商店街」(前期▲24.4→今期▲36.0)は大幅な悪化、「その他」(同▲26.2→同▲30.8)は悪化した。来期予想の業況判断(▲30.7)は小幅な改善の見通し。

◎店の立地地域別業況について(当期)

	合計	駅周辺商店街	住宅地隣接商店街	その他
全体	150	61	50	39
良い～悪い	-49	-19	-18	-12
DI	-32.7	-31.1	-36.0	-30.8

売上額・収益の動き

～売上額は大幅に悪化、収益は横ばい～

売上額判断(DI)は▲15.3(前期比12.0ポイント減)と大幅に悪化、収益判断(DI)は▲18.7(同、増減なし)と横ばい。来期予想の売上額判断(▲16.0)はほぼ横ばいの見通し、収益判断(▲18.7)は横ばいの見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格、仕入価格ともに小幅な悪化～

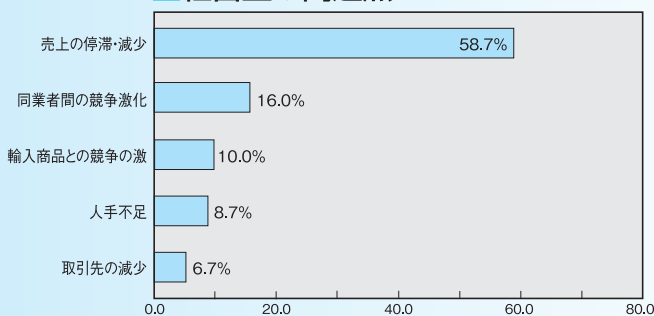
販売価格判断(DI)は26.7(前期比1.3ポイント減)、仕入価格判断(DI)は50.0(同1.7ポイント増)と、ともに小幅な悪化。来期予想の販売価格判断(26.0)、仕入価格判断(49.3)ともにほぼ横ばいの見通し。

資金繰り・雇用面の動き

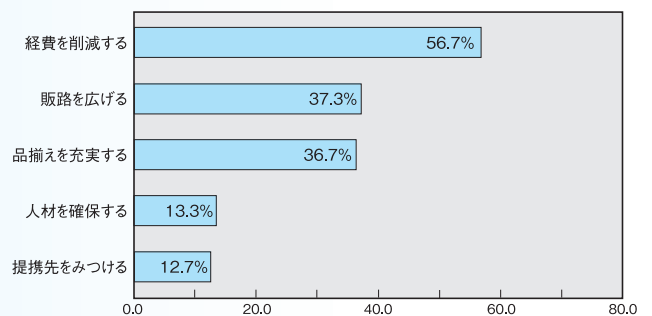
～資金繰りは悪化、人手については不足幅がやや縮小～

資金繰り判断(DI)は▲13.3(前期比8.0ポイント減)と悪化。人手判断(DI)は▲4.0(同1.3ポイント増)と不足幅がやや縮小。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期0.7%→今期2.7%と小幅な増加、不足とした企業の割合は同6.0%→同6.7%とほぼ横ばい。適正とした企業は同93.3%→同90.7%と小幅に減少した。来期予想の資金繰り判断(▲12.7)はほぼ横ばい、人手判断(▲2.7)は不足幅がやや縮小の見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

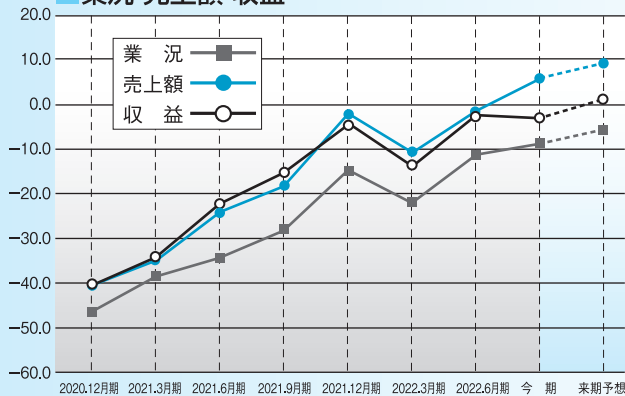


企業のコメント



- ・業況改善傾向。催事機会増加に比例し売上高増加。(輸入雑貨)
- ・コロナ前の客足が戻っており、売上は増加傾向にある。(タバコ・菓子)
- ・為替レートの影響もあり、仕入等影響が出ている。(建築金物)
- ・売上は減少が続いている。常連客は戻ってきているが、一見客が少なく今後も不安がある。(カフェ)
- ・原材料費高騰が不安材料である。(弁当販売)
- ・コロナ影響多大。未だ業況改善せず。(酒類販売)

■ 業況・売上額・収益



■ サービス業 DI値の推移

	2020.12月期	2021.3月期	2021.6月期	2021.9月期	2021.12月期	2022.3月期	2022.6月期	今期	来期予想
業況	-46.0	-38.5	-34.5	-27.9	-14.9	-22.1	-10.6	-9.2	-5.5
売上額	-40.5	-35.0	-24.0	-18.2	-2.6	-10.5	-1.0	5.5	9.6
収益	-40.5	-34.5	-22.5	-15.2	-4.1	-13.6	-2.0	-3.0	1.0
料金価格	-2.5	-1.5	0.0	1.0	2.6	6.0	16.6	17.6	16.1
材料価格	1.0	-0.5	2.0	7.7	18.7	25.5	33.5	37.7	34.2
資金繰り	-12.0	-7.5	-10.0	-3.0	0.5	0.0	2.0	-0.5	0.0
従業員残業時間	-14.5	-12.5	-13.5	-9.1	-1.0	-3.5	4.5	-0.5	-0.5
従業員人手	-9.0	-6.5	-5.5	-9.1	-10.7	-9.5	-16.1	-13.6	-15.0
設備状況	-1.5	-1.0	-1.0	-5.1	-6.6	-6.5	-6.5	-5.5	-6.5

業況について

2022年7月～9月期 ～業況は前期比1.4ポイント増の小幅な改善～

2022年7月～9月期、サービス業の業況判断(DI)は▲9.2(前期比1.4ポイント増)と小幅な改善。
来期予想の業況判断(▲5.5)は改善の見通し。

売上額・収益の動き

～売上額は改善、収益は小幅に悪化～

売上額判断(DI)は5.5(前期比6.5ポイント増)と改善、収益判断(DI)は▲3.0(同1.0ポイント減)と、小幅に悪化した。
来期予想の売上額判断(9.6)、収益判断(1.0)は、ともに改善の見通し。

料金価格・材料価格の動き

～料金価格は小幅な改善、材料価格は悪化～

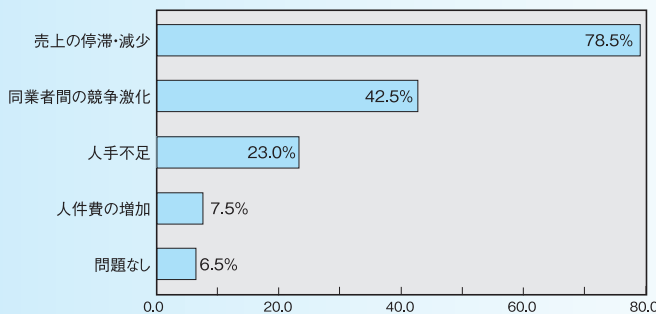
料金価格判断(DI)は17.6(前期比1.0ポイント増)と小幅な改善。材料価格判断(DI)は37.7(同4.2ポイント増)と悪化。
来期予想の料金価格判断(16.1)と小幅な悪化、材料価格判断(34.2)と改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

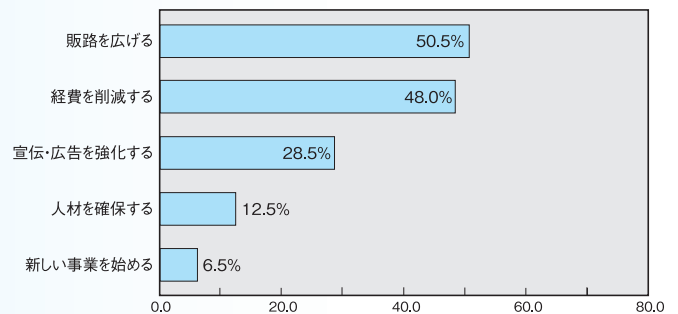
～資金繰りは小幅な悪化、人手「不足」超幅は縮小～

資金繰り判断(DI)は▲0.5(前期比2.5ポイント減)と小幅な悪化。
人手判断(DI)は▲13.6(同2.5ポイント増)と「不足」超幅は縮小。人手判断の内訳は、人手不足とした企業の割合は前期17.6%→今期15.6%と減少、人手過剰とした企業の割合は同1.5%→同2.0%とほぼ横ばい、適正とした企業の割合は同80.9%→同82.4%と増加した。
来期予想の資金繰り判断(0.0)はほぼ横ばい、人手判断(▲15.0)は「不足」超幅が小幅拡大の見通し。

■ 経営上の問題点



■ 当面の重点経営施策

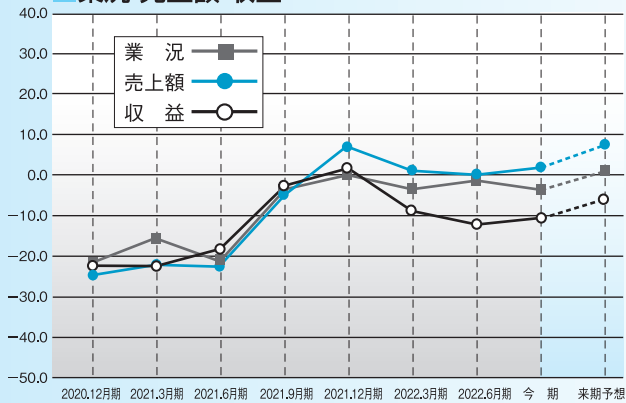


企業のコメント



- ・コロナ禍になってから少し売上下がっていたが、最近は持ち直す。(理容・美容)
- ・グループ全体で好調。ピンチをチャンスと捉えていきたい。(ビルメンテナンス)
- ・食材高騰の影響大。利益確保が必要である。(飲食)
- ・今はペーパーレス化時代であり、厳しい状況は変わらず。(印刷業)
- ・徐々に患者は増加傾向だが、まだまだ業況厳しい。宣伝や紹介により患者数の増加を図る。(整形外科)
- ・コロナの影響は現在も続いているが、軽油価格の高騰に苦慮。(運送業)

■業況・売上額・収益



■建設業 DI値の推移

	2020.12月期	2021.3月期	2021.6月期	2021.9月期	2021.12月期	2022.3月期	2022.6月期	今期	来期予想
業況	-21.5	-15.5	-20.5	-3.6	0.0	-3.5	-1.5	-3.0	1.0
売上額	-24.5	-22.0	-22.5	-4.0	7.6	1.0	0.0	2.0	7.5
受注残	-21.0	-21.5	-19.5	1.0	7.6	2.5	5.0	8.0	6.0
施工高	-22.0	-19.0	-17.5	-2.5	7.1	0.0	10.0	10.5	11.5
収益	-22.0	-22.0	-18.0	-3.0	1.5	-9.5	-12.1	-10.5	-6.0
請負価格	-5.5	-8.5	-5.5	5.1	11.1	14.0	26.0	27.0	27.0
原材料仕入価格	3.5	3.0	18.5	44.4	57.6	65.5	80.0	69.0	61.5
在庫	-1.5	-2.0	-3.0	-2.0	-6.1	-11.5	-7.5	-6.5	-6.0
資金繰り	-4.5	-4.0	-1.5	2.5	2.0	0.5	0.5	2.0	4.0
従業員残業時間	-10.5	-10.5	-11.0	-6.6	5.6	2.5	4.0	3.0	2.0
従業員人手	-20.5	-18.0	-13.0	-14.2	-17.3	-22.5	-20.0	-19.0	-18.5
設備状況	-2.0	-2.0	-2.0	-4.0	-3.6	-4.5	-2.5	-3.5	-4.0

■業況について

2022年7月～9月期 ～業況は前期比1.5ポイント減と小幅な悪化～

2022年7月～9月期、建設業の業況判断(DI)は▲3.0(前期比1.5ポイント減)と小幅な悪化。請負先別の業況(DI)は、「個人向け」(同▲27.8→同▲7.1)は大幅に改善したが、「大企業向け」(同6.9→同7.4)はほぼ横ばい。「中小企業向け」(同▲14.8→同▲16.7)は小幅に悪化し、「官公庁向け」(前期30.6→今期19.4)は大幅に悪化した。来期予想の業況判断(1.0)は、改善の見通し。

◎最多請負先別の業況について(当期)

	合計	官公庁	大企業	中小企業	個人
全体	200	36	54	96	14
良い～悪い	-6	7	4	-16	-1
DI	-3.0	19.4	7.4	-16.7	-7.1

■売上額・収益・受注残の動き

～売上額、収益は小幅に改善。受注残については改善した～

売上額判断(DI)は2.0(前期比2.0ポイント増)と小幅に改善。受注残判断(DI)は8.0(同3.0ポイント増)と改善した。収益判断(DI)は▲10.5(同1.6ポイント増)と、小幅に改善した。来期予想の売上額判断(7.5)、収益判断(▲6.0)はともに改善の見通し。受注残判断(6.0)については小幅な悪化の見通し。

■請負価格・原材料価格の動き

～請負価格は小幅な改善、原材料価格は大幅に改善した～

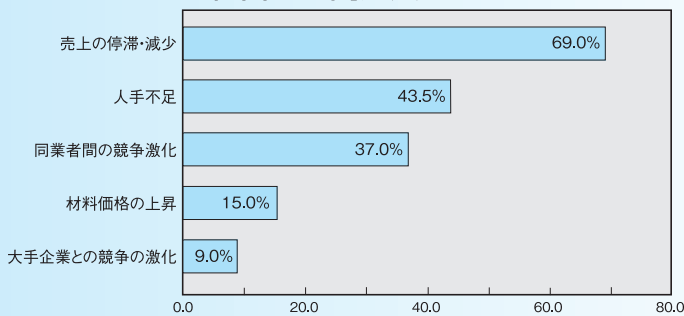
請負価格判断(DI)は27.0(前期比1.0ポイント増)と小幅な改善。原材料価格判断(DI)は69.0(同11.0ポイント減)と、大幅に改善した。来期予想の請負価格判断(27.0)は横ばい、原材料価格判断(61.5)は改善の見通し。

■資金繰り・雇用面の動き

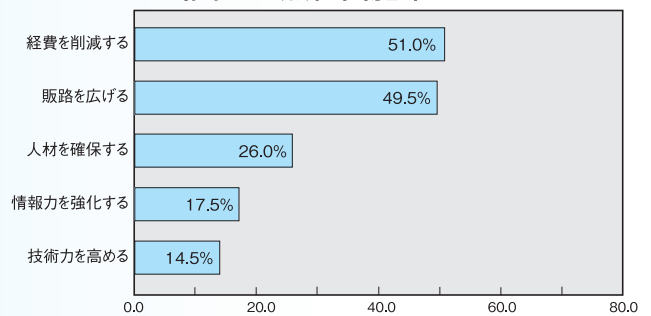
～資金繰りは小幅な改善、人手「不足」超幅は縮小～

資金繰り判断(DI)は2.0(前期比1.5ポイント増)と小幅な改善。人手判断(DI)は▲19.0(前期比1.0ポイント減)と「不足」超幅が縮小。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期0.0%→今期1.0%と小幅な増加。適正とした企業の割合は同80.0%→同79.0%と小幅な減少。また、人手不足とした企業の割合は同20.0%→同20.0%と横ばいであった。来期予想の資金繰り判断(4.0)は小幅に改善、人手判断(▲18.5)はほぼ横ばいの見通し。

■経営上の問題点



■当面の重点経営施策

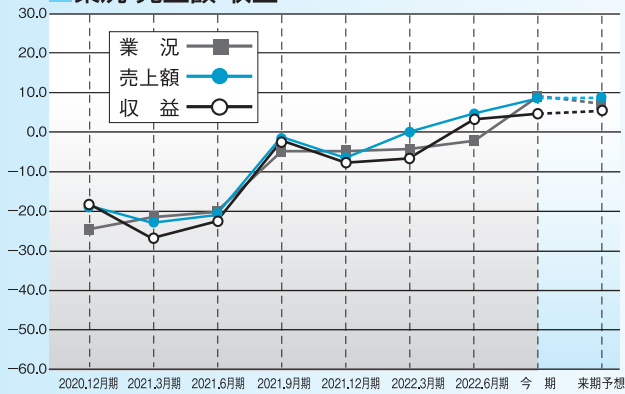


■企業のコメント



- ・ 公共工事の入札も順調に落札しており、年明けまでの受注は確保できている。(防水工事)
- ・ コロナによる受注が戻ってきており、現在は受注活発。(内装工事)
- ・ 売上は安定して計上。物価上昇の影響も材料は現物支給が多く、ほとんど影響を受けていない。(土木基礎工事)
- ・ 前期より集中工事続いており、受注も安定している。(道路区画工事)
- ・ 材料価格が高騰し、採算の確保ができない現場も出てきている。(内装工事)
- ・ コロナウィルス感染による現場の延期等が相次いでいる。(防水工事)

業況・売上額・収益



不動産業 DI値の推移

	2020.12月期	2021.3月期	2021.6月期	2021.9月期	2021.12月期	2022.3月期	2022.6月期	今期	来期予想
業況	-23.9	-21.5	-20.0	-4.7	-3.9	-4.6	-2.3	9.3	7.7
売上額	-18.5	-23.8	-20.7	-1.5	-5.4	0.0	4.6	9.2	9.2
収益	-18.4	-26.9	-22.3	-2.4	-6.2	-6.9	3.1	4.6	5.4
販売価格	-3.9	-0.7	0.0	14.1	25.4	28.5	42.3	51.5	45.7
仕入価格	9.2	15.4	26.2	48.8	48.5	62.3	60.8	60.8	53.1
在庫	-28.5	-26.2	-27.7	-35.4	-40.0	-35.4	-33.1	-29.2	-33.8
資金繰り	-5.3	-2.3	0.8	-4.7	3.1	-0.8	4.6	4.6	4.6
従業員残業時間	-17.0	-13.8	-15.4	-3.8	-3.1	-6.2	1.5	2.3	3.9
従業員人手	-2.3	-3.1	-1.5	-0.8	-6.2	-3.8	-0.8	-3.9	-3.9

業況について

2022年7月～9月期 ～業況は前期比、大幅な改善～

2022年7月～9月期、不動産業の業況判断(DI)は9.3(前期比11.6ポイント増)と大幅な改善。業種内容別業況では、「建売」(前期▲2.4→今期7.1)は改善、「賃貸」(同▲5.6→同17.6)、「仲介管理」(同0.0→同19.2)は大幅に改善した。来期予想の業況判断(7.7)は、小幅な悪化の見通し。

◎業種内容別業況について(当期)

	全 体	賃 貸	建 売	仲介管理
全 体	127	17	84	26
良い～悪い	14	3	6	5
D I	11.0	17.6	7.1	19.2

売上額・収益の動き

～売上額は改善、収益は小幅な改善～

売上額判断(DI)は9.2(前期比4.6ポイント増)と改善、収益判断(DI)は4.6(同1.5ポイント増)と、小幅な改善。来期予想の売上額判断(9.2)は横ばい、収益判断(5.4)はほぼ横ばいの見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は改善、仕入価格は横ばい～

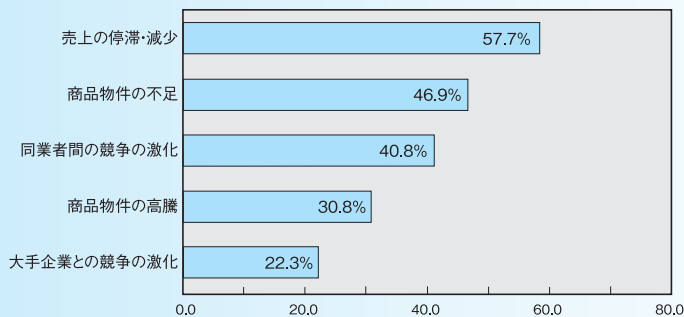
販売価格判断(DI)は51.5(前期比9.2ポイント増)と改善。一方、仕入価格判断(DI)は60.8(同0.0)と横ばい。来期予想の販売価格判断(45.7)は悪化、仕入価格判断は(53.1)と改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

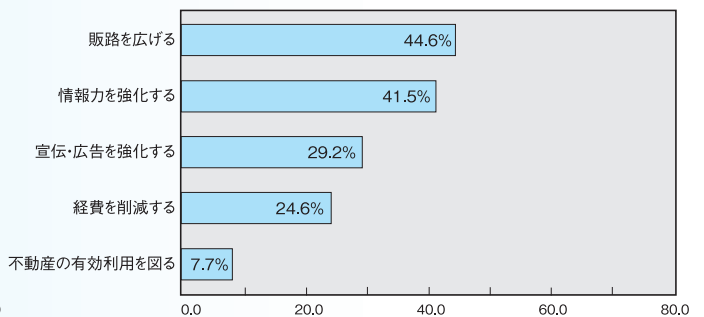
～資金繰りは横ばい、人手は「不足」超幅が拡大～

資金繰り判断(DI)は4.6(前期比0.0)と横ばい。人手判断(DI)は▲3.9(前期比3.1ポイント減)と「不足」超幅が拡大。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期1.5%→今期0.0%となり、適正とした企業の割合は同96.2%→同96.1%とほぼ横ばい、人手不足とした企業の割合は同2.3%→同3.9%と小幅に増加した。来期予想の資金繰り判断(4.6)、人手判断(▲3.9)、ともに横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策



企業のコメント



- ・ 仕入価格の上昇が進んでいる。販売価格に転嫁はできており、販売も進んでいる状態。(分譲)
- ・ 店舗立地良く駅前であり、来店客数がコロナ前の水準まで回復売買強化し売上増加する。(不動産全般)
- ・ 土地の販売価格が高騰している状況。いい物件があまりない。(斡旋)
- ・ 収益マンションは常に満室状態。(賃貸業)
- ・ 商品物件が不足。仕入価格高騰しており、商品物件の確保が課題。(不動産業)
- ・ 建売も考えているが、土地が高い上に仕入競争が激しい。(賃貸業)

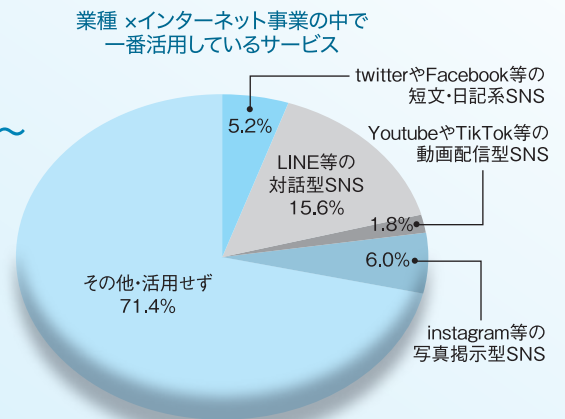
今回の北おおさか信金景気動向特別調査は「IT化への対応とDX推進の取組について」をテーマにアンケート調査を行いました。調査期間は2022年9月1日～7日。調査対象は北大阪を中心とする地元企業1200社で、有効回答は1200社(有効回答率100.0%)。



現在、インターネット上のサービスを積極的に活用している事業者が増加しています。貴社が事業の中で既に活用しているサービスはありますか？次の中から1つ選んでお答えください。

～「LINE等の対話型SNS」15.6%、
「instagram等の写真掲示型SNS」6.0%、
「TwitterやFacebook等の短文・日記系SNS」5.2%～

「貴社が事業の中で活用しているSNSサービス」について聞いたところ、「LINE等の対話型SNS」と回答した企業割合は15.6%となった。(業種別では、サービス業が21.5%、不動産業が20.0%と高く、小売業が8.7%と低い)「その他・活用せず」と回答した企業割合は71.4%となった。(業種別では、金属機械工業が84.5%、建設業が74.5%と高く、サービス業が62.0%と低い)。



■業種 × インターネット事業の中で一番活用しているサービス

業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
合計	5.2%	15.6%	1.8%	6.0%	71.4%		
twitterやFacebook等の短文・日記系SNS	6.0%	2.0%	4.2%	10.7%	5.0%	1.5%	9.2%
LINE等の対話型SNS	13.5%	11.0%	17.5%	8.7%	21.5%	17.5%	20.0%
YoutubeやTikTok等の動画配信型SNS	3.0%	2.0%	0.8%	1.3%	1.5%	2.0%	1.5%
instagram等の写真掲示型SNS	4.5%	0.5%	3.3%	14.7%	10.0%	4.5%	5.4%
その他・活用せず	73.0%	84.5%	74.2%	64.7%	62.0%	74.5%	63.8%

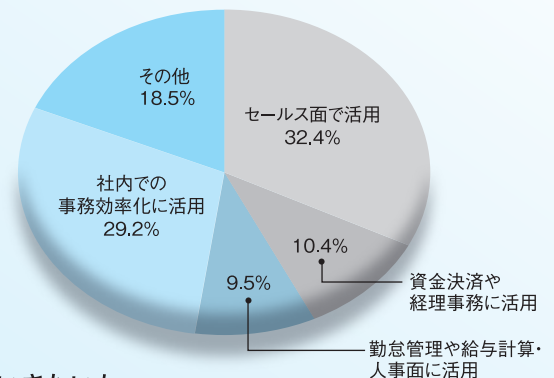


貴社はインターネットを利用したサービスを、主にどの分野で活用していきたいと思いませんか？

～「セールス面で活用」32.4%、
「社内での事務効率化に活用」29.2%、
「資金決済や経理事務に活用」10.4%～

「インターネットを利用したサービスを、主にどの分野で活用していきたいか」聞いたところ、「セールス面で活用」と回答した企業割合は32.4%となった。(業種別では小売業(56.0%)、不動産業(43.4%)で高く、金属機械工業(14.5%)で低い)「社内での事務効率化に活用」と回答した企業割合は29.2%となった。(業種別では金属機械工業(41.5%)、建設業(33.5%)で高く、小売業(15.3%)で低くなった)。
なお、「資金決済や経理事務に活用」と回答した企業割合は、10.4%であった。

業種 × インターネットを利用したサービスを、どの分野で活用していきたいか



■業種 × インターネットを利用したサービスを、どの分野で活用していきたいか

業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
合計	32.4%	10.4%	9.5%	29.2%	18.5%		
セールス面で活用	28.0%	14.5%	35.8%	56.0%	40.9%	19.5%	43.4%
資金決済や経理事務に活用	11.5%	13.5%	9.2%	8.0%	8.1%	11.5%	9.3%
勤怠管理や給与計算・人事面に活用	12.5%	12.5%	5.8%	2.7%	10.1%	14.0%	3.9%
社内での事務効率化に活用	31.0%	41.5%	32.5%	15.3%	23.2%	33.5%	22.5%
その他	17.0%	18.0%	16.7%	18.0%	17.7%	21.5%	20.9%

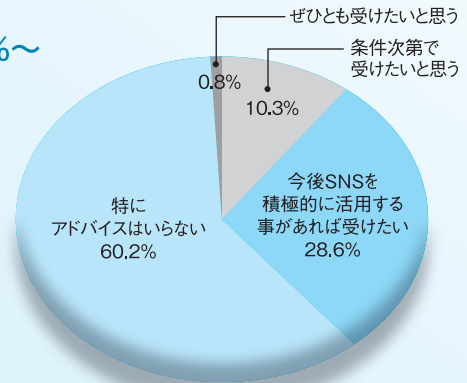


貴社は、SNS関連の専門家のアドバイスを受けたいと思いますか？

～「ぜひとも受けたいと思う」0.8%、
 「条件次第で受けたいと思う」10.3%、
 「今後SNSを積極的に活用する事があれば受けたい」28.6%～

本項目は、「現在SNSをセールス手段として、積極的な活用を行っている事業者が増加しています。効果的な集客のためには、トレンドに沿ったSNSの使い方が重要である」と記したうえで、選択していただきました。「ぜひとも受けたいと思う」と回答した企業は10社(0.8%)、「条件次第で受けたいと思う」と回答した企業10.3%(業種別では、卸売業(15.8%)、サービス業(14.6%)が多く、製造業(7.0%)が低い)「今後SNSを積極的に活用する事があれば受けたい」と回答した企業は28.6%であった。(業種別では、卸売業(30.0%)、不動産業(30.0%)が高く、小売業(25.0%)が低い)。

業種 × SNS関連の専門家のアドバイスを受けたいと思いますか



■業種 × SNS関連の専門家のアドバイスを受けたいと思いますか

合計	回答	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
0.8%	ぜひとも受けたいと思う		0.5%	0.5%	0.8%	0.7%	1.0%	1.5%	0.8%
10.3%	条件次第で受けたいと思う		7.0%	7.6%	15.8%	11.5%	14.6%	8.0%	10.0%
28.6%	今後SNSを積極的に活用する事があれば受けたい		28.6%	28.3%	30.0%	25.0%	28.8%	29.6%	30.0%
60.2%	特にアドバイスはいらない		63.8%	63.6%	53.3%	62.8%	55.6%	60.8%	59.2%

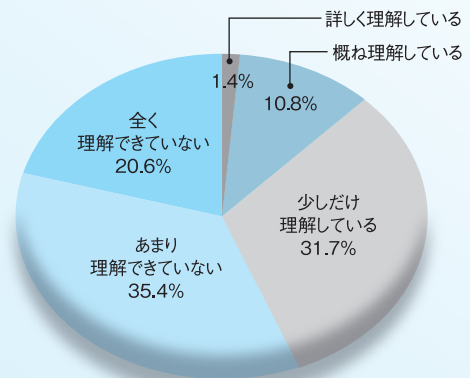


貴社はDXについて、どの程度理解されていますか？

～「詳しく理解している」1.4%、
 「概ね理解している」10.8%、
 「少しだけ理解している」31.7%～

DX(デジタルトランスフォーメーション)についての理解度については、「詳しく理解している」と回答された企業は17社(1.4%)しかおらず、「概ね理解している」(10.8%)をあげる事業先も少なかった。(業種別では、不動産業(16.2%)、卸売業(14.3%)で多く、小売業(5.3%)で少なかった。なお、「少しだけ理解している」では31.7%の回答があったが、卸売業(41.2%)、不動産業(35.4%)で多くなったが、建設業は(26.1%)にとどまった。

業種 × DXについてどの程度理解されていますか



■業種 × DXについてどの程度理解されていますか

合計	回答	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
1.4%	詳しく理解している		3.0%	0.5%	1.7%	1.3%	2.5%	0.0%	0.8%
10.8%	概ね理解している		10.1%	10.0%	14.3%	5.3%	12.0%	9.5%	16.2%
31.7%	少しだけ理解している		29.6%	31.0%	41.2%	33.3%	31.0%	26.1%	35.4%
35.4%	あまり理解できていない		42.2%	37.0%	25.2%	31.3%	32.0%	43.2%	30.0%
20.6%	全く理解できていない		15.1%	21.5%	17.6%	28.7%	22.5%	21.1%	17.7%

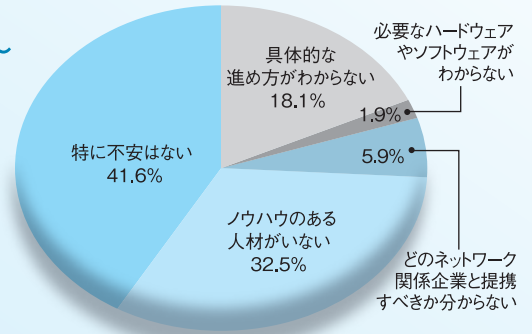


貴社がIT化やDXを進めるにあたり、ご不安に思われる点について。

- ～「ノウハウのある人材がない」32.5%、
- 「具体的な進め方がわからない」18.1%、
- 「どのネットワーク関係企業と提携すべきか分からない」5.9%～

IT化やDXを進めるにあたり不安な点がないか聞いたところ、「ノウハウのある人材がない」が32.5%を占めた。(業種別では、金属機械工業(35.7%)、サービス業(33.0%)が多く、卸売業(30.8%)で少ない)また、「具体的な進め方がわからない」が18.1%を占めた。(業種別では、小売業(22.0%)、建設業(20.1%)で多く、不動産業(12.4%)で少なかった。他には、「どのネットワーク関係企業と提携すべきか分からない」(5.9%)と続き、「必要なハードウェアやソフトウェアがわからない」は1.9%にとどまった。

業種 × IT化やDXを進めるにあたり、不安に思う点



業種 × IT化やDXを進めるにあたり、不安に思う点

不安な点	割合	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
具体的な進め方がわからない	18.1%		17.6%	15.6%	19.2%	22.0%	19.0%	20.1%	12.4%
必要なハードウェアやソフトウェアがわからない	1.9%		2.0%	1.5%	0.8%	0.7%	4.0%	2.0%	1.6%
どのネットワーク関係企業と提携すべきか分からない	5.9%		5.5%	5.0%	5.8%	6.7%	6.5%	8.0%	3.1%
ノウハウのある人材がない	32.5%		31.2%	35.7%	30.8%	31.3%	33.0%	32.2%	32.6%
特に不安はない	41.6%		43.7%	42.2%	43.3%	39.3%	37.5%	37.7%	50.4%

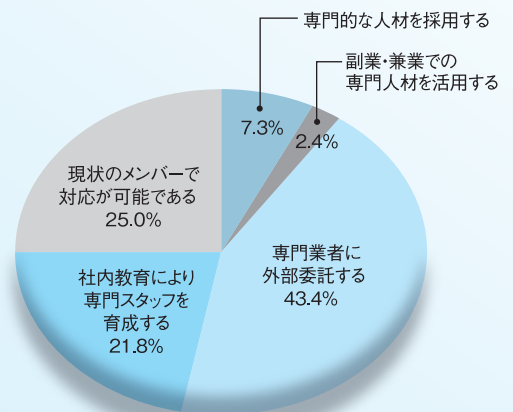


貴社がIT化やDXへの対応を検討した場合に、課題解決のためにどのような対策を考えますか？

- ～「専門的な人材を採用する」7.3%、
- 「副業・兼業での専門人材を活用する」2.4%、
- 「専門業者に外部委託する」43.4%、
- 「社内教育により専門スタッフを育成する」21.8%、
- 「現状のメンバーで対応が可能である」25.0%～

IT化やDX対応についての課題解決方法について聞いてみたところ、「専門的な人材を採用」... 金属機械工業(9.0%)、卸売業(8.3%)で多く、製造業(5.5%)で少ない。「副業・兼業での専門人材を活用」... サービス業(5.0%)、不動産業(3.1%)で多く、製造業(1.5%)、金属機械製造(1.0%)で少ない。「専門業者に外部委託する」... 金属機械工業(48.5%)、建設業(46.0%)で多く、サービス業(39.0%)で少ない。「社内教育により専門スタッフを育成する」... 製造業(27.0%)、金属機械工業(24.5%)で多く、不動産業(15.4%)で少ない。この結果より、専門業者に外部委託する事業者も多いが、「専門的な人材を採用」「副業・兼業での専門人材を活用」する事業者も少なくないことがうかがえます。

業種 × 人材ニーズ



業種 × 人材ニーズ

対策	割合	業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
専門的な人材を採用する	7.3%		5.5%	9.0%	8.3%	7.3%	7.0%	8.0%	6.2%
副業・兼業での専門人材を活用する	2.4%		1.5%	1.0%	2.5%	2.7%	5.0%	1.5%	3.1%
専門業者に外部委託する	43.4%		39.5%	48.5%	42.5%	44.0%	39.0%	46.0%	44.6%
社内教育により専門スタッフを育成する	21.8%		27.0%	24.5%	20.8%	18.0%	21.5%	22.0%	15.4%
現状のメンバーで対応が可能である	25.0%		26.5%	17.0%	25.8%	28.0%	27.5%	22.5%	30.8%

地域密着を信条とした65か店のネットワーク

店舗のごあんない

北おおさか信用金庫 店舗配置図



(2022年11月現在)

店外 ATM

- ◆ 吹田市水道部出張所
- ◆ 吹田市役所出張所
- ◆ JR吹田駅前さんくす出張所
- ◆ イズミヤ千里丘店出張所
- ◆ メロード吹田出張所
- ◆ フレンドマート岸辺出張所

- ◆ イオン高槻店出張所
- ◆ アクトアモール出張所
- ◆ 関西スーパー西冠店出張所
- ◆ サボイ出張所
- ◆ マルヤス豊田店出張所
- ◆ イオン茨木ショッピングセンター出張所
- ◆ イオンスタイル新茨木出張所

- ◆ 小曽根出張所
- ◆ 三国商店街出張所
- ◆ 神崎川駅前出張所
- ◆ 毛馬出張所
- ◆ イオンモール大日出張所
- ◆ 大池出張所
- ◆ 庄内栄町出張所

- ◆ ららぽーとEXPOCITY店出張所
- ◆ 旭丘出張所
- ◆ 相川出張所
- ◆ 茨木市役所出張所
- ◆ 塚本駅前出張所
- ◆ ビエラ岸辺健都出張所
- ◆ 江口出張所

- ◆ 江坂出張所
- ◆ みのおキョースモール出張所
- ◆ 上牧出張所
- ◆ 香里出張所

営業地域 (地区別)

大阪府：大阪市、茨木市、高槻市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、守口市、門真市、摂津市、寝屋川市、大東市、東大阪市、枚方市、八尾市、交野市、四条畷市、堺市、松原市、三島郡、豊能郡

兵庫県：尼崎市、伊丹市、川西市、西宮市、宝塚市、川辺郡

京都府：向日市、長岡京市、乙訓郡大山崎町

発行日 2022年10月31日
 発行行 北おおさか信用金庫 総合企画部
 住所 〒567-8651 茨木市西駅前町9-32
 電話番号 072-623-4981(代)
 ホームページ <https://www.kitaosaka-shinkin.co.jp/>
 編集 株式会社 きたしん総合研究所

